

**「地域とともにある学校」・
「学校とともにある地域」をめざして**



別府市立中部中学校 統括コーディネーター

藤内 教子

別府市教育魅力化事業

中学校区教育ネットワーク

別府市立中部中学校



統括コーディネーター

○市専門職員として中学校に配置

＜担当業務例＞

- ・学校運営協議会事務
- ・学校支援のコーディネート
職業講話講師依頼事務
職場体験受入れ事業所との交渉
社会に開かれた教育課程作成支援
- ・補習教室などの地域学校協働活動のコーディネート
- ・校区内小学校の協育コーディネーターの支援

支援

協力

別府市立別府中央小学校



協育コーディネーター
(ボランティア)

支援

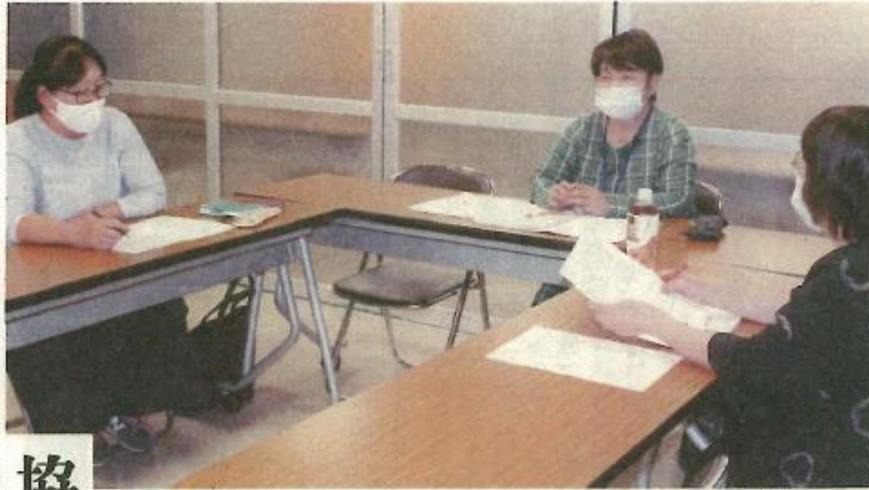
協力

別府市立境川小学校



協育コーディネーター
(ボランティア)

別府市、中部中校区に専任コーディネーター



連絡会で情報共有をする統括コーディネーターの藤内教子さん（中央）と協育コーディネーター＝別府市役所

学校・地域結ぶ「応援団長」

【別府】別府市教委は本年度、各小中学校と地域や家庭を結ぶ専任のコーディネーターを配置した。同市では保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール（CS）」を推進しており、学校や地域の実情に応じた協働活動につなげる。

市教育魅力化事業の一環で、中部中校区に市専門職員の統括コーディネーター（統括1人を4月に配置。8月には同中と校区内にある中央、境川各小学校の住民代表1〜2人に市地域学校協働活動推進員（協育コーディネーター）を委嘱した。同中校区をモデルにし、今後、他校区に広げていくと検討している。

「統括」の業務として、職業講話の講師依頼や職場体験を受け入れる事業所との交渉、補習教室の支援などを想定。地域と学校の調整役を担う「協育」のサポートや、月1回の連絡会を通して情報共有を図る。

CSは2016年、市内の全小中学校でスタート。これまで公民館職員がコー

協働活動調整のモデルに

（佐藤弘子）

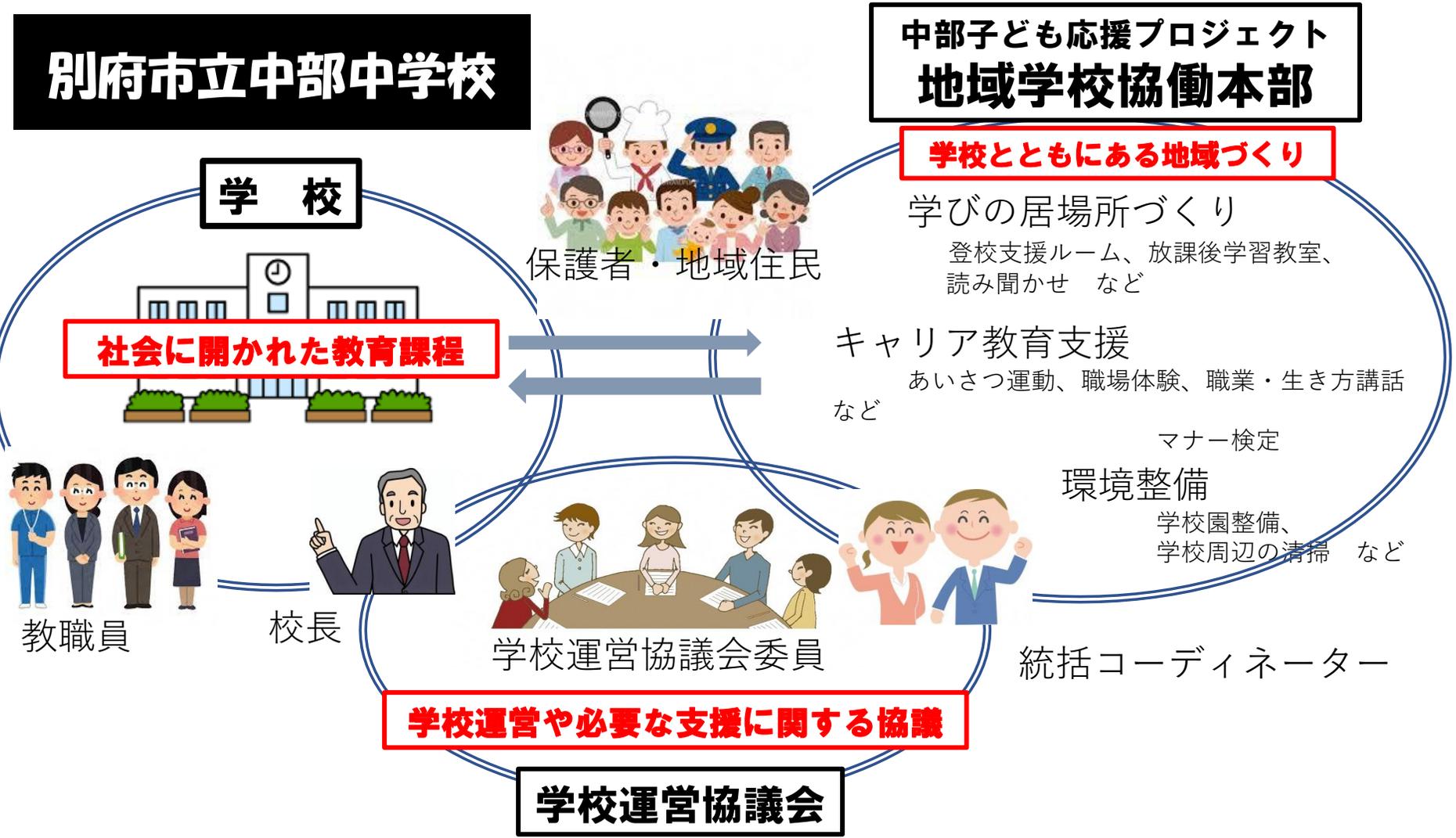
だが、学校や地域と連携を密に図ることが難しく、機能が十分に發揮されていないなどの課題が指摘されていた。

「統括」には小中学校で勤務経験がある元教諭の藤内教子さん（62）を配置。中部中で放課後学習教室などの運営を始めた。藤内さんは「学校の求めを把握し、地域の協力を増やしたい。子どもたちを中心に、元気な魅力ある町になるよう努力したい」と話す。

CS導入後、PTA活動の活発化や、子どもの学習意欲向上などの成果も見えている。担当する市社会教育課の縄田早苗課長補佐兼社会教育主事（51）は「地域には学校を応援したいと思う一方で、実現できないシレンマを抱えている人も多い。その思いを形にする『応援団長』のような存在になってほしい」と期待している。

夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成

すべては子どもたちのために すべての子どもたちのために



中部子ども応援プロジェクト (地域学校協働本部)

活動内容

学校の課題解決に取り組 みます

- ・登校支援ルームでの生徒の
見守り。
- ・読み聞かせ活動。
- ・放課後学習支援教室実施。
(6月17日より実施)。
など。

学校の教育目標の実現に 向け、「夢を持たせる」キャ リア教育を支援します

- ・集会での職業講話。
- ・小グループでの職業講話。
- ・職場体験の事業所の斡旋。
など。

学校の重点的取り組みで ある「あいさつ」ができる 生徒の育成を支援します

- ・全戸へチラシを配布し、子
どもたちの見守りへの協
力を呼びかけます。

環境整備活動などを行い ます

- ・学校の求めに応じて取り組
みます。
- ・松葉清掃 11月後半予定。
- ・慰霊祭準備(体育館裏の清掃)。
2月予定。

中部子ども応援プロジェクト(地域学校協働本部)を立ち上げました。このプロジェクトは、中部の子どもたちの夢の実現に近づかためへの応援団です。中部中の先輩方をはじめ、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関の幅広いみなさんの参加を得て、地域全体で中部っ子たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」をめざし、地域と学校が相互にパートナーとなり連携・協働して、元気に楽しく活動します。

プロジェクトリーダー 権藤 和雄

事務局 統括コーディネーター 藤内 教子
協育コーディネーター 大林 みどり

学校課題 不登校 登校支援ルームでの支援

- 地域の方で登校支援
ルームを整備
- 地域の支援で不登校生の
見守りを実施

登校支援ルーム



地域の方の見守り

新設した登校支援ルーム



学校課題「不登校」に 地域とともに取り組むことで



住民が先生「ドリームスクール」 別府の中部中



地域の先生から話を聞く生徒＝別府市中部中

【別府】別府市中部中で12日、3年生（15人）が地域住民から職業について学ぶ「ドリームスクール」があった。地域住民と学校でつくる中部子ども応援プロジェクト（地域学校協働本部）が開いた。

アナウンサー、管理栄養士、建築士、サーフアーから16人が講師となり、各教室で10人程度の生徒を対象に授業。仕事の具体的な内容ややりがい、中学時代の過ごし方などさまざまな切り口で話した。

同中は「社会に開かれた教育課程」実現に向けた取り組みとして、「地域の先生」から学ぶ活動「ドリームスクール」を実施。佐藤裕一校長は「子どもたちが将来の夢を考えるきっかけになればうれしい」と話した。（佐藤弘子）

僕はいつも、めんじくさい事が逃げればかりで、
それに、よくネガティブな考えをしていたけど、今日、
の授業で「ねばねば」いつかその夢が叶うときが
くるし、「人生は一度きりだからたくさん失敗して
もいい」と分かったのじ。これから夢を叶える
ために、いろいろとちゃんしようと思いました。あ
りがとうございます。

今日は「我が山の中ありか」といふ意味。動物で言うの

も、人間の「心」が矢張り同じ「ボディ」である。

動物が母を愛するとは、親知らずの心と言ふ文字は僕

の心は、おぼろげである。で、矢張り「おぼろげ」で「おぼろげ」

さかててきました。夢は、声に出さず「おぼろげ」。

いつか「親知らずの心」である。失敗しても、何故でも

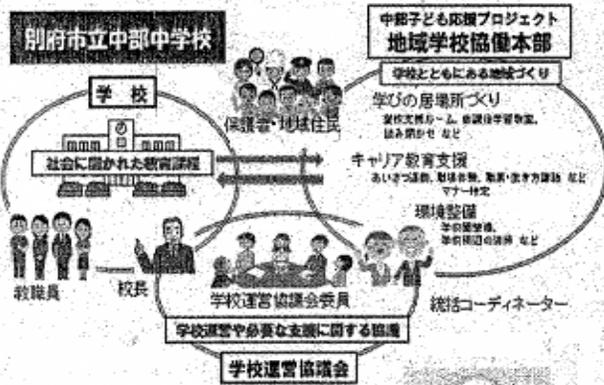
今日は本当に僕達(中部中学)校外へ行った夢、

大切に送るし、おぼろげの心「おぼろげ」。

中部子ども応援プロジェクト活動中

今年度、5月より学校教育目標である「夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成」とめざして、もともと子どもたちを保護者を含む地域の皆さんと一緒に応援していくと「中部子ども応援プロジェクト(地域学校協働本部)」を立ち上げました。組織図と活動内容は以下の通りです。現在、登校支援ルームの見守り、読みきかせ、放課後学習教室(中3生専用)の見守り、職業講話の講師のコーディネートなどを行っています。今後、いろいろな活動の様子などもお知らせしたいと思っております。どうぞ応援ご協力をお願いいたします。

夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成
すべては子どもたちのために すべての子どもたちのために



中部子ども応援プロジェクト (地域学校協働本部)

活動内容

- 学校の課題解決に取り組めます。**
 - 登校支援ルームでの授業の様子。
 - 読みきかせ活動。
 - 放課後学習教室(空室) (6月17日より実施) など。
- 学校の教育目標の実現に向け、「夢」を持たせる「キャリア教育」を支援します。**
 - 企業での職業講話。
 - 小グループでの職業講話。
 - 関連体験の事業所の発掘。 など。
- 学校の重点的取り組みである「あいさつ」ができる生徒の育成を支援します。**
 - 全戸へチラシを配布し、子どもたちの見守りへの協力をお願いいたします。
- 民間団体活動などを行います。**
 - 学校の求に応じて取り組めます。
 - 地域連携 11月後半予定。
 - 新着図書(「未来地図の美徳」) 2月予定。

<プロジェクトリーダー> 榎藤和雄 <事務局> 大村みどり、藤内教子

夢語る人募集!!

11月12日(金)の午後、中3生を対象に DREAM SCHOOL を開催します。さあさあ職業の方に来校していただき、キャリアを選んで理由ややりがいなどを語ってもらいます。10人程度の少人数グループディスカッション形式で計画しています。「行っていいよ」という方がいらしたら、連絡をください。中部中 TEL 22-4295
担当 藤内教子

境川清掃に参加しました!

中部ひばりまちまち協議会の主催で10月10日(日)に境川清掃が行われました。中部中学校が参加するのは7年目。今年は清掃する範囲を広げて、広い範囲を作業しました。学校で保護者の皆さん、生徒たちに参加と呼びかけたところ、生徒は88保護者の皆さんは13人参加してくださいました。地域の皆さんと合わせて210人の方が作業しました。おかげでとても美しくなりました。子どもたちも地域の皆さんと汗を流し、日頃からいつも目に見える河川敷を清掃できて、とても良い経験ができたと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございます。



松葉の清掃のボランティアを募集します!!



毎年、秋にわり、冬の近頃と、中部中の東側に植込されている松の葉が、鷹高通りにたくさん落ちて困っています。片が落ちたに人手が足りず、苦勞しています。私、力を貸して下さる方があれば、下記の日程で掃除をしたいと考えています。

言

日時: 11月25日(木) 9:00~10:00
集合場所: 中部中玄関
作業に必要な道具、車手はご自身で準備してください。
作業して欲しいという方がいらしたらご連絡ください。

<連絡先> 中部中学校 TEL 22-4295
<担当> 藤内教子(総括コーディネーター)
*雨天は中止。日程を再調整します。

No.1で「夢語る人募集!!」を載せました。回覧板のご覧になって、連絡をくださった方がありました。とてもありがとうございました。ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

Dream

No.3
中部中地政学校協働本部
2021.11.19.
文責 藤内 敦子
(統括コーディネーター)

中部中 DREAM SCHOOL 開催 part.1

第二弾 尾島春夫さんに学ぶ

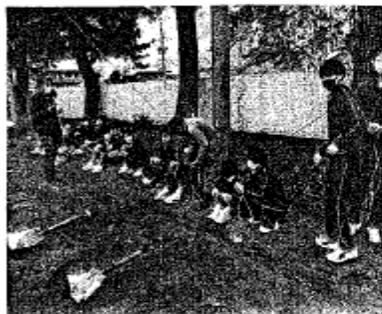


11月10日(水)に中学生対象に尾島春夫さんをお招きしてホッパヤ交流会を実施しました。今年3年生は昨年にも来ていただいたので2回目の出会いとなりました。今年はそのお礼に追加、ロープワークも行いました。一緒に作業をしたあと、子どもたちの質問に丁寧に答えてくださいました。

「人に優しく己に厳しく」「口数少なく手数を多く」「何事も先に仕える」「与えた慣性は水に流す」「弱は何にもやってみる。経験がすべて大切」「どんな時にも一番心が大事」などのメッセージの中で、尾島さんの優しく温かい言葉を聞いて子どもたちも私たちが大人も大切な元気をもらいました。来ていただいて本当にありがとうございました。

子どもたちの感想(1)

- 最初のあいさつから声が大変で、心が温かくなりに感動した。
- 尾島さんのようにどんなことでもうそなく正直に言うのが大人になりたい。
- 一生忘れられない活動になった。
- 人として大事なことを聞けてよかった。
- 元気が明るい。太陽の光の存在だ。
- どんなことにも一生懸命になることが一番大事だと思った。
- 実際に体験したことを堂々と話せるのがとてもカッコイイ。
- 失敗を恐れずに、何でもチャンスがある限り、やってみようと思う。
- 周りの人に力を与える存在になりたい。
- がんばる人はカッコイイ。美しい。
- あきらめず最後までがんばる。
- これからの入試や人生に向けてがんばろう。



子どもたちの質問に真剣に答えてくださいました。4時間、何度も答えてくださいました。

Dream

No.4
中部中地政学校協働本部
2021.11.22.
文責 藤内 敦子
(統括コーディネーター)

第三弾 夢の実現に近づくために DREAM SCHOOL

11月12日(金)に16人のさまざまな職種の方に来ていただき、その仕事についてのお話ややりがい、苦悩されていること、私、日頃大切にしていることを話していただきました。3年生を対象に10人/組の少人数で行いました。

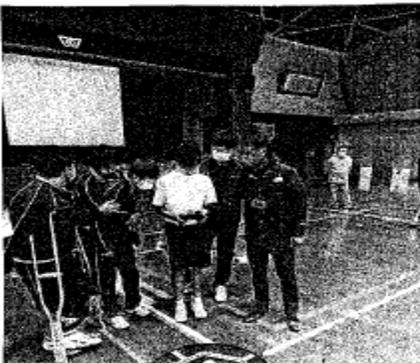
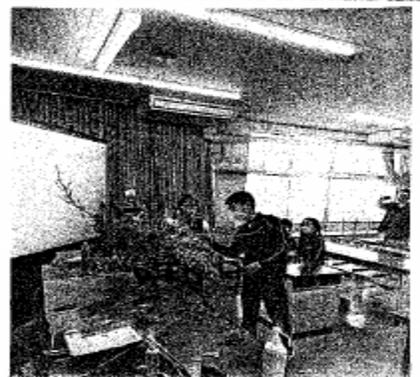
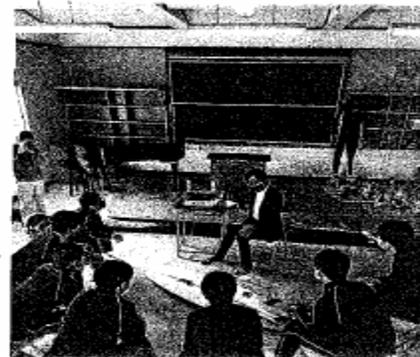
子どもたちの感想(2)

- 自分の夢への道がまた一步進んだ。
- 夢がなくて困っていたけど、今日のDream Schoolで決まりました!
- どの道の職も難しい。でも夢をあきらめなければいいのかな?
- 将来の選択肢が広がった。夢に向かってがんばりたい。
- 今後、一生懸命、今をがんばり、未来を創っていくと思えた。
- 「あきらめないことが大事」と言われたことを思い出して、夢実現に向けてがんばろうと思う。
- 自分の人生は自分で決めるもの。何でもチャレンジして、それがまちがったとしても行動できることが大事だと思った。
- チャンスはイマのこと。何でもいいからつかむ!
- 大変なことでも挑戦していく。
- 「これをしたい」「これがしたい」など思っているからこれなら行ける。その気持ちにかなう。
- 努力すること大切。人を大切にするのを学ぶ。
- 自分に合った仕事、自分の好きは仕事。その仕事を続けることが大事だと大切さを学んだ。
- 努力がなければ何も挑戦できない。
- 夢をあきらめずポジティブに考えることが大事だと思えるようになった。
- 夢に向かってあきらめず心に大切にしていきたい。

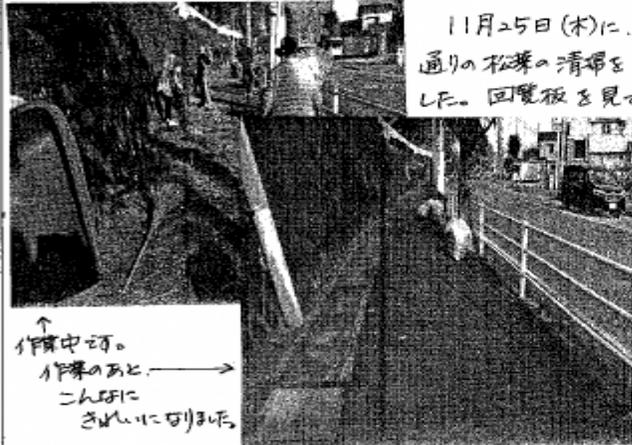
○人のために働くことがカッコイイ。

貴重なお話を聞いて子どもたちの感謝の言葉を言えました。

ありがとうございました!!



松葉の清掃 ありがとうございます!!



↑作業中
作業のあと、
こんぽに
さしんに綺麗に

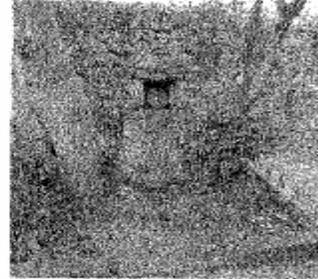
11月25日(木)に、Dream No.2のご案内した通りに、鶴高通りの松葉の清掃を行いました。17の方々が参加して下さいました。回覧板を見て、天満、荘園町、北的の浜、石垣など、多くの方が連絡を下さいました。本当にありがとうございます。

当日は、風も強く、よい天気の中、作業することができ、軽トラック2台分の松葉が集まりました。参加された方が、「楽しかったよ」「私も中部出身だよ」と作業のあとに、いろいろな話をしてくれました。

中部中は地域の方に支えられていることを、あらためて確認することができました。子どもたちにもしっかり伝えていきたいと思っております。また、こちらにもあたたかく見守っていただければ幸いです。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

祠(ほら)周辺の清掃のボランティアを募集します!!

学校の体育館裏に祠(ほら)があります。学校沿革史によると、「昭和30年2月15日に講堂の棟上げ式を挙行したが、同年2月20日に強風のため講堂が倒壊、重傷者が出た。その後、再度建築工事をを行う際、転落事故があり作業員が死亡。現場が慶長5年の石垣原合戦の古戦場にもなっていることから、当合戦の無縁仏をも含めて供養塔を設立し毎年供養祭を執り行うようになった」ということです。毎年2月中旬に供養祭を行っています。祠の周辺は木が多く落ち葉がたかたか積まっています。供養祭の前に下記の日程で清掃を行いたいと思います。作業に参加してもいいよという方がいらしたらご連絡ください。



記
日時：2月16日(水) 9:00～10:00
集合場所：中部中玄関
○作業に必要な道具、軍手はこちらで準備します。

<連絡先> 中部中学校 TEL 22-4295
<担当> 藤内敦子(統括コーディネータ)
※天候がよくない場合は日程を変更して行う可能性があります。ご了承ください。

中三生がんばっています!!



～放課後学習教室を 実施しています～

1月18日の私立特奨・推薦入試を皮切りに、いよいよ入試が始まりました。

3年生は12月に最後の三面面談を経て、志望校を決定しました。今、それぞれの夢や目標に向かって一生懸命がんばっています。

これから私立一般、公立推薦、公立一般と入試が続きます。

中部子ども応援プロジェクトでは、昨年6月17日から毎週、火曜と木曜の放課後に、子どもたちを応援するために、学習する場所を提供しています。地域のボランティアの方々が数名、見守ってくれています。夏休みや冬休みにも実施しました。

これまでにのべ557人の子どもたちが参加しています。わからないところをボランティアの方に質問する様子もたくさんみられます。

もちろん自分のペースで学習に励んでいます。卒業まで、この教室は続ける予定にしています。子どもたちが自分の夢に向かってがんばっているのを見守り応援しています。どうぞ子どもたちを温かく見守っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

祠(ほら)周辺の清掃のボランティアを募集します!!

通信 Dream No.5でお知らせしました。再度お知らせします。祠(ほら)については、前号でお知らせした通りです。今年度は2月18日(金)に慰霊祭を行うことになりました。そこで、下記の日程で周辺の清掃をしたいと思っています。作業に参加してもいいよという方がいらしたらご連絡をお願いいたします。

記
日時：2月16日(水) 9:00～10:00
集合場所：中部中正面玄関
○作業に必要な道具、軍手はこちらで準備します。

<連絡先> 中部中 TEL 22-4295
<担当> 藤内敦子(統括コーディネータ)
※天候がよくない場合は、日程を変更して行う可能性があります。ご了承ください。

地域人材募集 人材バンク作成中

学校の教育目標「夢を持ち、自ら学び続ける生徒」

現在40名

育成のためのドリームスクール

中部中「ドリームスクール」は地域の先生の授業！
「生徒の心に火をつける」ためのお手伝いを！！

現在、ドリームスクールの「地域の先生」を募集し、人材バンクを作成中です！！

ドリームスクールで地域の先生となり、子ども心に火をつけることができるような人材や、生徒のモチベーションを高めることができる人材、1時間の教科の授業（国社数理英音美体技家）の学習のヒントを与えることができる人材を募集しています。

今後の流れ

人材バンク作成



人材バンクを先生方へ提示



各教員が人材バンクを参考にR4授業計画を策定



ドリームスクールの系統的指導計画案作成

おねがい

地域の先生になってくれる人材をご存知の方はお知らせください。「氏名」、「職種」、「講座内容・伝えたいこと」「連絡先」を書いていただき、メールでお知らせください (satou-yuuichi@oen.ed.jp)

電話でのお問い合わせは22-4295（校長）もしくは、中部子ども応援プロジェクト（統括コーディネータ 藤内）までお知らせください。

なお、人材バンクに登録させていただいても、必ずしも地域の先生をお願いするかはわかりません。ご了承くださいたいと思います

令和4年度版DREAM SCHOOL 夢の学校へ 夢を持ち 自ら学び続ける 生徒の育成

文責 別府市立中部中学校
校長 佐藤裕一

生徒を認め褒める取組指標

重点的取組・取組指標を共有、教員がその行動目標を達成した後の生徒の立場
重点目標「人を大切に育てる生徒の育成」にかかわる重点目標
喫緊の課題（不登校）に対して、全校生徒へ「認め褒めること」で自己肯定感を育成しようとする取組

良きや個性を認め合う活動の推進
・1日に一回以上は生徒個人や集団の良いところを見つけて褒める。

「認め褒める」取組指標を行ったことに対する生徒の意識 肯定率 94%

10 先生は、よいところや行動をほめてくれる。	1年	62%	32%	6%	0%
	2年	55%	36%	8%	1%
	3年	62%	34%	4%	1%

考察 教師が教育目標・重点的取組・取組指標を共有し、実施した結果

生徒の94%が「先生はよいところや行動をほめてくれる」と答えている。この数値は驚異的であり、取組が生徒へ浸透したことがわかる。そのことから、子どもたちの自己肯定感が高まるのではないかと考察できる。

合言葉 すべては子どもたちのために、すべての子どもたちのために

別府市立中部中学校

年に1回全校生徒を対象に地域のゲストティーチャーを招き、生徒の希望に応じた職業体験・講話。



(メインイベント) ガチンコスクールデイ

学校の教育活動の支援～夢を持つ子へ

中部中学校PTA

統括コーディネータ調整

中部子ども応援プロジェクト 地域学校協働本部

学校とともにある地域づくり

居場所づくり(学校課題解決)
登校支援ルームでの見守り など
夢を持たせる支援(学校教育目標実現)
ドリームスクール、放課後学習教室、読み聞かせ など

環境整備



登校支援ルーム



地域の方の見守り

新設した登校支援ルーム



ドリームスクール



学校運営協議会委員

学校運営や必要な支援に関する協議

学校運営協議会

学校の教育目標 夢を持ち、自ら学び続ける生徒の育成

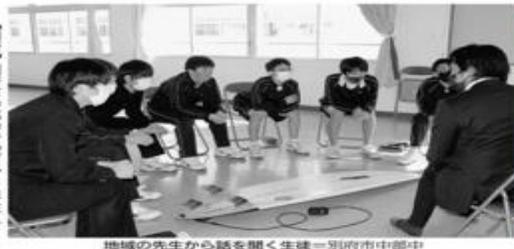
夢を持ち、自ら学ぼう!
中部中ドリームスクール
CHUBU Dream School

頭 学: 学校運営協議会 会長 藤原昭雄 様

中部中学校は子どもたちを認め褒める取組を行っております。ホームページでは「さすが 中部の子どもたち」コーナーで、子どもたちの素晴らしい姿を紹介しています。もし、中部中の子どもよいところなどお気づきの点は、校長 (satou-yuichi@oen.ed.jp) までお知らせください。ホームページに掲載させていただきます。

住民が先生「ドリームスクール」 別府の中部中

別府市立中部中では、生徒一人一人が地域住民から保護されている「ドリームスクール」があった。地産地消で多くの子どもが活躍している。中部中も応援プロジェクト(地域学校協働本部)が開いた。
アソウヤ、農業委員、講師、ボランティア、16人の保護者、教員10人程度の生徒を対象に授業、仕事の経験の学習や、が、中学時代の過ごし方を学ばせるつもりで開いた。
同校は「社会に開かれた教育課程」実現に向け、取り組んで、地域先生から授業、ドリームスクール(夢を持ち、自ら学ぼう)は、子どもたちが将来の夢を学ぶきっかけになるようにと開いた。(佐藤裕一)



地域の先生から話を聞く生徒—別府市立中部中

【別府市報】(1) 中部中がプロジェクト 地域住民と生徒育成
「夢を持ち、自ら学ぼう!」を掲げる中部中。地域住民と連携し、生徒の育成に取り組んでいる。...

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅰ×Ⅳ】「学校課題等の解決に向けた地域学校協働活動の充実」

事例案

取組実践校: 別府市立中部中学校(生徒数479名 17学級)

「学校課題等に地域とともに取り組む工夫」

【観点Ⅰ】学校組織としてのベクトルをそろえる

学校の教育目標
夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成

学校の喫緊の課題の洗い出し
年度当初の第1回教職員意識調査により不登校対応が喫緊の課題であることを共通認識

解決の方向性を共有(第2回教職員意識調査)
「すべては子どもたちのために、
すべての子どもたちのために」

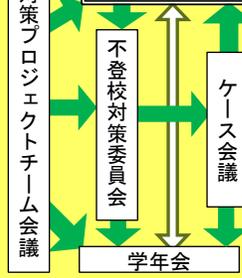
職員室通信を活用した学校風土の醸成

4点セットの取組指標に対する校内実践の好事例を共有



不登校対応の連携システム

登校支援ルーム



校内に不登校生徒の「居場所」をつくる

どこに? どうやって?

対応できる職員がいない!

統括コーディネーターによる調整

【観点Ⅳ】学校の教育目標実現及び学校課題の解決に向かう地域の教育力の活用

地域学校協働本部(中部子ども応援プロジェクト)による学校課題等の解決に向けた取組の推進

学校の教育目標実現に向けた取組



「地域の先生」によるドリームスクール(職業講話)実施。

学校課題の解決に向けた取組



校内の倉庫を地域の協力で登校支援ルームへ改装



地域ボランティア(後に登校支援員として対応)による支援ルーム見守り

登校支援ルームの活用

社会に開かれた教育課程実現



令和4年度の教育課程に「夢を持ち自ら学ぶ生徒」育成のためにドリームスクールを入れる。人材バンク 単元配列表作成

取組の成果: 学校教育目標を地域・保護者と共有・不登校生徒の居場所として支援ルームが機能

成果

子ども達への効果

- ・ 居場所ができ、不登校性が減少
- ・ 地域の人々の生き方から「夢」を抱く

地域への効果

- ・ 学校の様子を知る
- ・ 自己理解が深まり、新たな学びとなる
- ・ 関りをもつことで得られる充実感

学校への効果

- ・ 社会に開かれた教育課程の実現
- ・ 負担軽減